

(5) 東海



東海地域では、景気は力強く回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

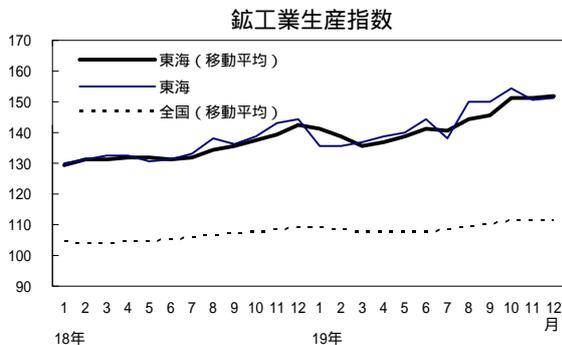
前回調査からの主要変更点

	前回（平成19年11月）	今回（平成20年2月）	
住宅建設	大幅に減少	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に増加している。

輸送機械は、乗用車の国内向けが、新型車効果により一部持ち直しの動きがみられたことに加え、海外はアジア、中東向けを中心に好調だったことや、自動車部品の輸出も好調だったことから、増加している。一般機械は、金属工作機械は、欧州、アジア向けに、繊維機械は中国、インド向けにそれぞれ好調だったことから、高水準で推移している。電気機械は、内燃機関電装品や電動機、制御機器が自動車関連向けを中心に好調だったことから、増加している。窯業・土石は、ファインセラミックスは自動車向けを中心に堅調だったものの、建築需要の低下によりタイルなどが低調に推移したことから、減少している。化学は、自動車関連向けが好調だったことなどから、高水準で推移している。電子部品・デバイスは、半導体素子・集積回路が携帯音楽機器向けを中心に、液晶素子がテレビなど情報通信機器向けに好調だったことなどから、増加している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。東海の最新月は速報値。
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
輸送機械	33.9	1.2	6.8	5.4	15.2
一般機械	11.3	0.2	0.4	2.9	9.9
電気機械	7.3	0.6	3.9	3.5	10.3
窯業・土石	6.1	1.5	2.4	1.9	3.7
化学	5.4	2.9	0.6	0.6	5.4
鉱工業	100.0	3.3	4.3	3.9	0.9

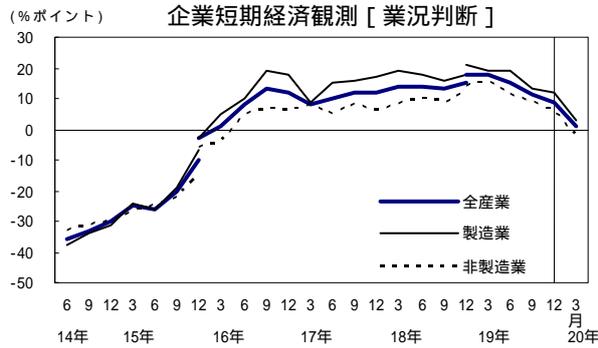
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10~12月期は速報値。

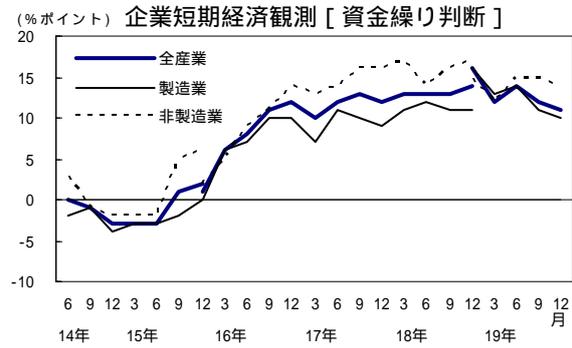
3. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

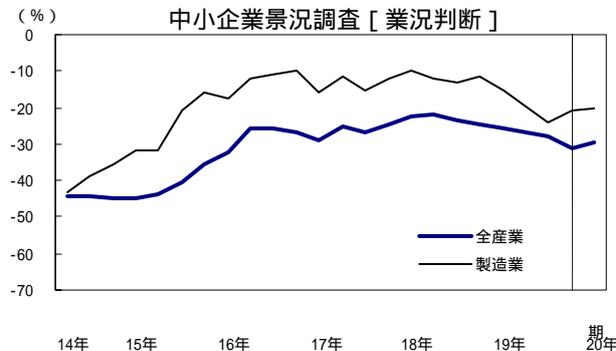
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年3月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

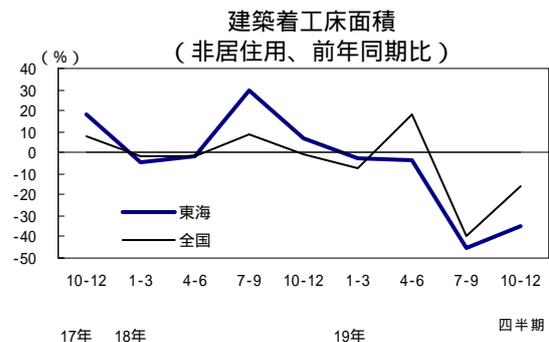
「顧問先企業の冬の賞与の状況を見ると、支給しない企業はないものの、金額は一昨年前の冬や昨年夏の賞与と比べて、増加している様子はない(会計事務所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	11.0	8.7 [9.2]
製造業	2.6	2.0 [2.7]
非製造業	29.4	20.4 [20.4]

(備考)[]は前回(9月)調査結果。



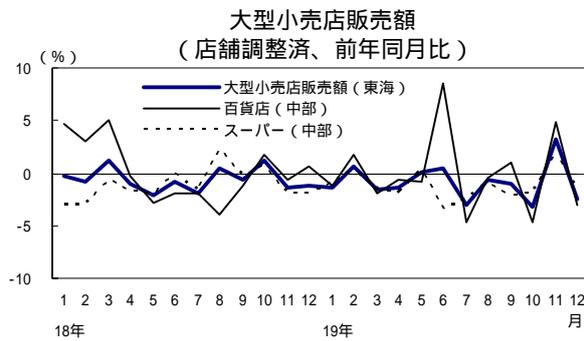
2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

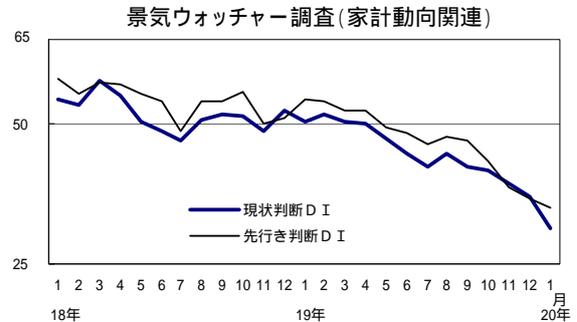
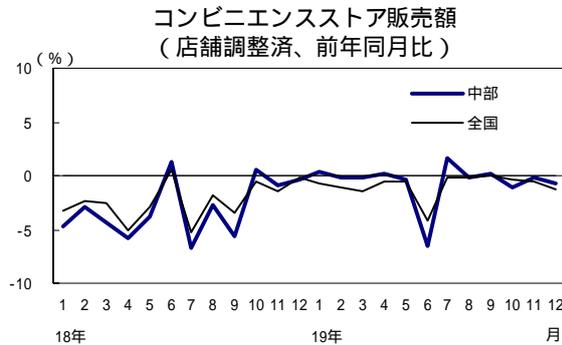
百貨店は、10月は、気温が高めに推移し、秋冬物衣料が不調だったことや、前年の地元プロ野球チームのリーグ優勝セールの変動などにより、前年を下回った。11月は、地元プロ野球チームの日本一記念セールが好調だったことや、中旬以降、気温が低めに推移し、冬物衣料の売上が伸びたことなどから、2か月ぶりに前年を上回った。12月は、気温が高めに推移し、冬物衣料の売行きが不調だったことや、前月の日本一記念セールの反動もあり、前年を下回った。なお、名古屋市内主要5百貨店の1月の売上高は、前年同月比で1.7%減となっている。スーパーは、11月は飲食料品、衣料品共に動きがあったものの、全体では前年を下回った。景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「宿泊客数の伸びは、年末年始にかけてはぱったり止まっている。忘年会の中止等、地元客の間で慎重な動きが見受けられる(観光型ホテル)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	0.9	0.3	1.6	0.9
百貨店	0.7	2.2	1.8	1.2
スーパー	0.8	1.7	1.9	0.7
コンビニ	0.0	2.3	0.6	0.7
景気ウォッチャー	50.8	47.3	43.2	39.3

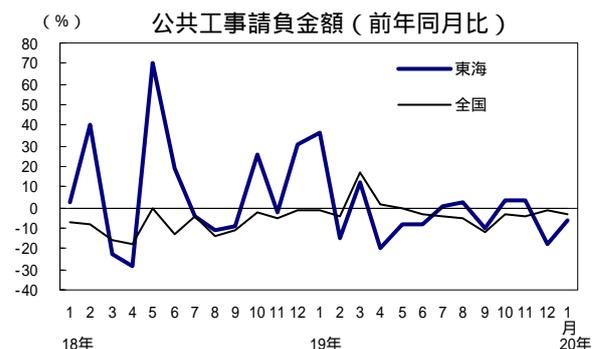
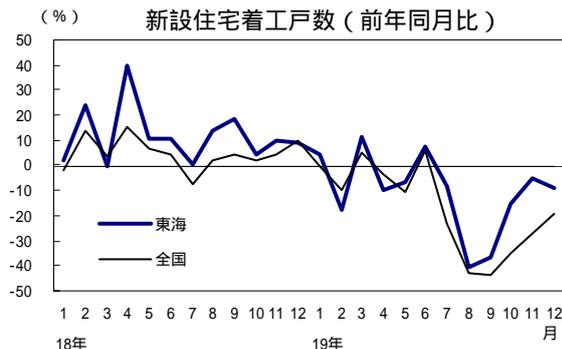
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

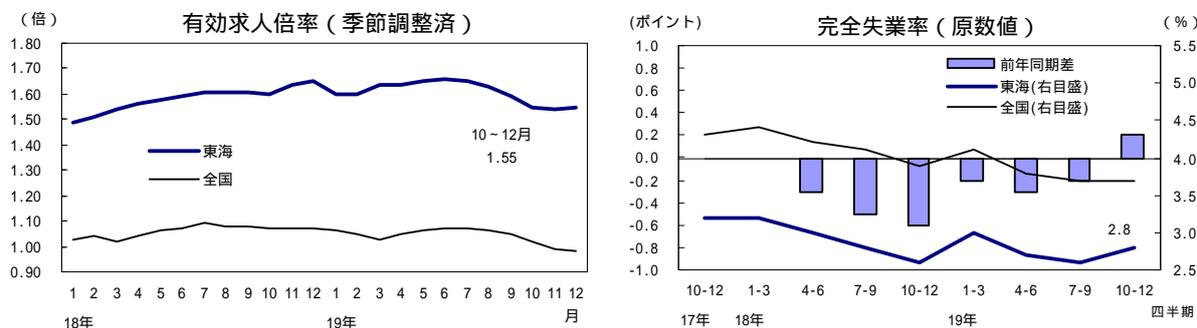


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連(現状)]

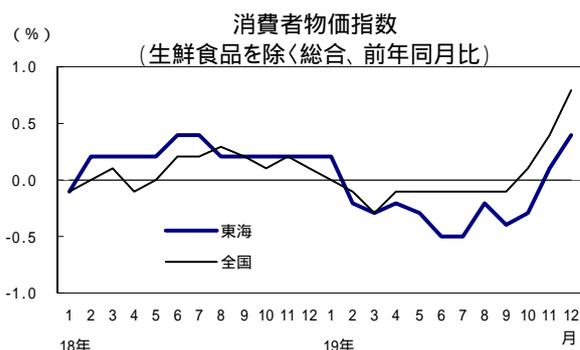
「一般求人広告の件数は、前年同月比 90%程度で推移している。輸出型の製造業は引き続き堅調であるが、地場産業では苦しい状態が続いている(新聞社[求人広告])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数が横ばいとなっている。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	20年1月
倒産件数	319	307	349	332	118
(前年比)	3.2	2.3	21.2	2.8	10.3
負債総額	886	755	1,993	750	314
(前年比)	11.5	45.8	94.7	20.1	4.5



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・年末の来客数は予想より少なかったが、年明けから活発になっている。1月の来客数は、例年よりもかなり増えている(乗用車販売店)

<先行き>

・北京オリンピックの開幕に向けて、デジタルテレビの販売が伸びる。また、省エネエアコンへの買換えが進み、単価上昇につながる(商店街)

